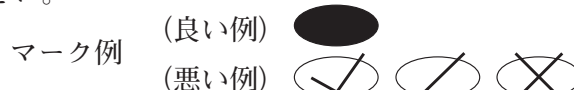


令和7年度（令和6年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）
中学校 高等学校 特別支援学校 中学部・高等部
数学

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
 - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

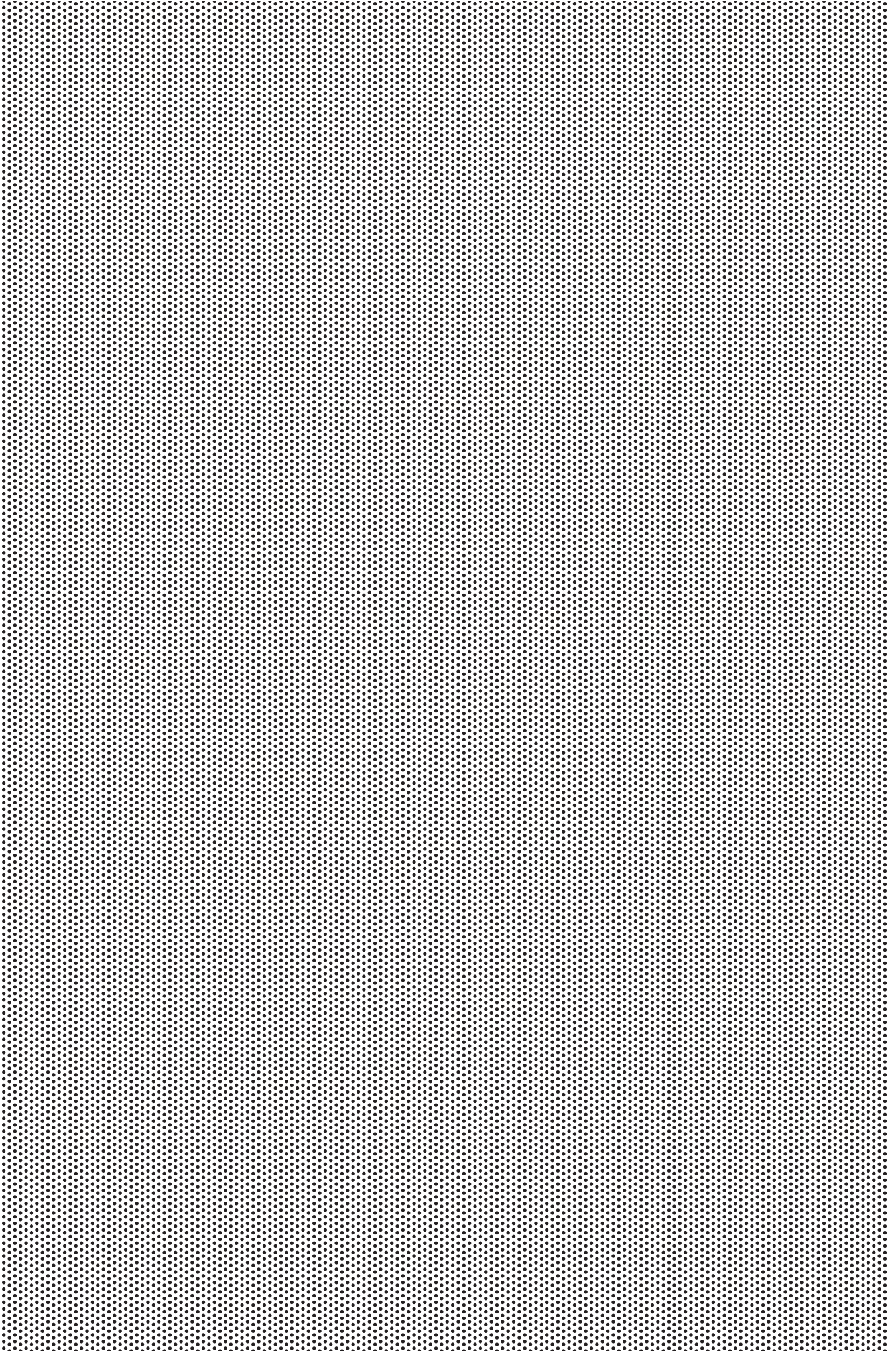
- ※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○0	○0	○0	○0	○0
●	○1	○1	○1	○1
○2	●	○2	○2	○2
○3	○3	●	○3	○3
○4	○4	○4	○4	○4
○5	○5	○5	○5	●

記入例

（受審番号12345の場合）

- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。
- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。解答については、本冊子の裏表紙の＜解答上の注意＞をお読みください。ただし、問題冊子は開かないでください。



【共通問題】

第1問

(1) 循環小数 $0.\dot{3}\dot{1}2$ を分数で表すと $\frac{\boxed{\text{アイウ}}}{\boxed{\text{エオカ}}}$ である。

(2) a, b は実数とする。次の条件 p, q について、 p は q であるための「必要条件であるが十分条件ではない」となっているものを、次の①～④の中から二つ選ぶと、
 $\boxed{\text{キ}}, \boxed{\text{ク}}$ である。

① $p : a = 3$

$q : a^2 = 9$

② $p : a < 2$

$q : a \leq 2$

③ $p : \text{四角形ABCDが平行四辺形}$

$q : \text{四角形ABCDが長方形}$

④ $p : a > 1 \text{ または } b > 1$

$q : a + b > 2$

⑤ $p : a > 1 \text{ かつ } b > 1$

$q : a + b > 2$

(3) x の2次関数 $y = x^2 + 2ax + 3a$ の最小値を l とすると、

a の関数 l の最大値は $\frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$ ，そのときの a の値は $\frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$ である。

(4) 全体で50個からなるデータがある。そのうち、20個の値の平均値は5，分散は56，残りの30個の値の平均値は10，分散は76である。50個全体の平均値は $\boxed{\text{ス}}$ ，分散は $\boxed{\text{セソ}}$ である。

(5) 袋Aにはカードが14枚，袋Bにはカードが6枚入っている。1個のサイコロを投げて，3の倍数の目が出たらAからBへカードを2枚移し，3の倍数の目が出なかったらBからAへカードを1枚移す。サイコロを5回続けて投げたとき，A，Bに入っている

カードの枚数が同じである確率は $\frac{\boxed{\text{タチ}}}{\boxed{\text{ツテト}}}$ である。

第2問

- (1) $a > 0$ のとき, $\left(a + \frac{2}{a}\right)\left(8a + \frac{1}{a}\right)$ の最小値は アイ, そのときの a の値は

$$\frac{\sqrt{\text{ウ}}}{\text{エ}}$$

である。

- (2) 2つの円 $x^2 + y^2 = 5$, $x^2 + y^2 + 2x + 6y + 5 = 0$ の2つの交点を通る直線の方程式は,
オ x + カ y + キ $= 0$, 2つの交点と点 $(-3, 0)$ を通る円の中
 心は点 $(\text{ク}, \text{ケ})$, 半径は コ である。

- (3) 関数 $y = \sin^2 x + 2\sin x \cos x - \cos^2 x$ の周期は サ π , $0 \leq x \leq 2\pi$ のとき最大値は
 $\sqrt{\text{シ}}$, そのときの x の値は $\frac{\text{ス}}{\text{セ}}\pi$, $\frac{\text{ソタ}}{\text{セ}}\pi$ である。

- (4) $a_1 = 9$, $na_{n+1} - 2(n+1)a_n = 3n(n+1)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で定められる数列 $\{a_n\}$ につ
 いて, $\frac{a_n}{n} = b_n$ とおくと,
 数列 $\{b_n\}$ の一般項は, $b_n = \text{チ} (\text{ツ})^{n \cdot \text{テ}} - \text{ト}$ となり,
 数列 $\{a_n\}$ の一般項が求められる。
 よって, 数列 $\{a_n\}$ の第7項は, $a_7 = \text{ナニヌネ}$ である。

第3問

ある地域の大学生全体を母集団とする。この十分に大きな母集団の大学生の1週間のテレビ視聴時間を表す確率変数を X とするとき、次の問いに答えなさい。なお、 X は正規分布 $N(m, \sigma^2)$ に従うものとする。

- (1) この母集団から無作為に大きさ n の標本 $X_1, X_2, \dots, X_n$ を抽出してその標本平均を $\bar{X}$ とする。 $\bar{X}$ の平均（期待値）を $E(\bar{X})$ 、 $\bar{X}$ の標準偏差を $\sigma(\bar{X})$ として、その値を次の①～⑨の中から選ぶと、 $E(\bar{X}) = \boxed{\text{ア}}$ 、 $\sigma(\bar{X}) = \boxed{\text{イ}}$ である。ただし、同じものをくり返し選んでもよいものとする。

① この条件からは求められない

② m

③ m^2

④ nm

⑤ $\frac{m}{n}$

⑥ σ

⑦ σ^2

⑧ $\frac{\sigma}{\sqrt{n}}$

⑨ $\frac{\sigma}{n}$

⑩ $n\sigma$

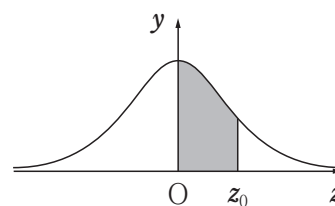
- (2) Z は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う確率変数である。 $P(|Z| \leq z_0) = 0.95$ となる z_0 を5ページの標準正規分布表から求めると、 $z_0 = \boxed{\text{ウ}}.\boxed{\text{エオ}}$ である。

- (3) 一般に、標本の大きさ n が大きいとき、母標準偏差の代わりに標本の標準偏差を利用してもさしつかえないことが知られている。今回、大きさ100の標本を無作為に抽出したところ、標本平均が18.2時間、標本の標準偏差が5.6時間であった。標本の大きさ $n = 100$ は十分に大きいと考えられるので、 m の信頼度95%の信頼区間を次の①～⑦の中から最も適切なものを選ぶと 力 である。

- ① この条件からは求められない
- ② $16.9 \leq m \leq 19.5$
- ③ $17.0 \leq m \leq 19.4$
- ④ $17.1 \leq m \leq 19.3$
- ⑤ $17.2 \leq m \leq 19.2$
- ⑥ $17.9 \leq m \leq 18.5$
- ⑦ $18.0 \leq m \leq 18.4$
- ⑧ $18.1 \leq m \leq 18.3$

標準正規分布表

次の表は、標準正規分布の分布曲線における右図の
灰色部分の面積の値をまとめたものである。



z_0	0.00	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.07	0.08	0.09
0.0	0.0000	0.0040	0.0080	0.0120	0.0160	0.0199	0.0239	0.0279	0.0319	0.0359
0.1	0.0398	0.0438	0.0478	0.0517	0.0557	0.0596	0.0636	0.0675	0.0714	0.0753
0.2	0.0793	0.0832	0.0871	0.0910	0.0948	0.0987	0.1026	0.1064	0.1103	0.1141
0.3	0.1179	0.1217	0.1255	0.1293	0.1331	0.1368	0.1406	0.1443	0.1480	0.1517
0.4	0.1554	0.1591	0.1628	0.1664	0.1700	0.1736	0.1772	0.1808	0.1844	0.1879
0.5	0.1915	0.1950	0.1985	0.2019	0.2054	0.2088	0.2123	0.2157	0.2190	0.2224
0.6	0.2257	0.2291	0.2324	0.2357	0.2389	0.2422	0.2454	0.2486	0.2517	0.2549
0.7	0.2580	0.2611	0.2642	0.2673	0.2704	0.2734	0.2764	0.2794	0.2823	0.2852
0.8	0.2881	0.2910	0.2939	0.2967	0.2995	0.3023	0.3051	0.3078	0.3106	0.3133
0.9	0.3159	0.3186	0.3212	0.3238	0.3264	0.3289	0.3315	0.3340	0.3365	0.3389
1.0	0.3413	0.3438	0.3461	0.3485	0.3508	0.3531	0.3554	0.3577	0.3599	0.3621
1.1	0.3643	0.3665	0.3686	0.3708	0.3729	0.3749	0.3770	0.3790	0.3810	0.3830
1.2	0.3849	0.3869	0.3888	0.3907	0.3925	0.3944	0.3962	0.3980	0.3997	0.4015
1.3	0.4032	0.4049	0.4066	0.4082	0.4099	0.4115	0.4131	0.4147	0.4162	0.4177
1.4	0.4192	0.4207	0.4222	0.4236	0.4251	0.4265	0.4279	0.4292	0.4306	0.4319
1.5	0.4332	0.4345	0.4357	0.4370	0.4382	0.4394	0.4406	0.4418	0.4429	0.4441
1.6	0.4452	0.4463	0.4474	0.4484	0.4495	0.4505	0.4515	0.4525	0.4535	0.4545
1.7	0.4554	0.4564	0.4573	0.4582	0.4591	0.4599	0.4608	0.4616	0.4625	0.4633
1.8	0.4641	0.4649	0.4656	0.4664	0.4671	0.4678	0.4686	0.4693	0.4699	0.4706
1.9	0.4713	0.4719	0.4726	0.4732	0.4738	0.4744	0.4750	0.4756	0.4761	0.4767
2.0	0.4772	0.4778	0.4783	0.4788	0.4793	0.4798	0.4803	0.4808	0.4812	0.4817
2.1	0.4821	0.4826	0.4830	0.4834	0.4838	0.4842	0.4846	0.4850	0.4854	0.4857
2.2	0.4861	0.4864	0.4868	0.4871	0.4875	0.4878	0.4881	0.4884	0.4887	0.4890
2.3	0.4893	0.4896	0.4898	0.4901	0.4904	0.4906	0.4909	0.4911	0.4913	0.4916
2.4	0.4918	0.4920	0.4922	0.4925	0.4927	0.4929	0.4931	0.4932	0.4934	0.4936
2.5	0.4938	0.4940	0.4941	0.4943	0.4945	0.4946	0.4948	0.4949	0.4951	0.4952
2.6	0.4953	0.4955	0.4956	0.4957	0.4959	0.4960	0.4961	0.4962	0.4963	0.4964
2.7	0.4965	0.4966	0.4967	0.4968	0.4969	0.4970	0.4971	0.4972	0.4973	0.4974
2.8	0.4974	0.4975	0.4976	0.4977	0.4977	0.4978	0.4979	0.4979	0.4980	0.4981
2.9	0.4981	0.4982	0.4982	0.4983	0.4984	0.4984	0.4985	0.4985	0.4986	0.4986
3.0	0.4987	0.4987	0.4987	0.4988	0.4988	0.4989	0.4989	0.4989	0.4990	0.4990

第4問

- (1) 1 辺の長さが 2 の正四面体OABCにおいて、辺ABの中点をP、辺CPを2:3に内分する点をQ、辺OQを1:2に内分する点をR、直線ARと平面OBCの交点をSとすると、

$$\overrightarrow{AR} = -\frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウエ}}} \overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{ウエ}}} \overrightarrow{OB} + \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}} \overrightarrow{OC} \quad \text{だから、}$$

$$\overrightarrow{OS} = \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケコ}}} \overrightarrow{OB} + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{ケコ}}} \overrightarrow{OC} \quad \text{である。}$$

したがって、線分OSの長さは、 $\frac{\sqrt{\boxed{\text{シス}}}}{\boxed{\text{セ}}}$ である。

- (2) 関数 $f(x) = x + \sqrt{9 - x^2}$ について、 $f(x)$ の最大値は $\boxed{\text{ソ}} \sqrt{\boxed{\text{タ}}}$ 、その

ときの x の値は $\frac{\boxed{\text{チ}} \sqrt{\boxed{\text{ツ}}}}{\boxed{\text{テ}}}$ である。

また、曲線 $y = f(x)$ と直線 $y = x$ で囲まれる部分の面積は $\frac{\boxed{\text{ト}}}{\boxed{\text{ナ}}} \pi$ である。

【選択問題 中学校】

第5問

以下の問いでは、『中学校学習指導要領』とは「『中学校学習指導要領』（平成29年3月文部科学省告示）第2章 第3節 数学」を指すものとする。

(1) 次の文章は、『中学校学習指導要領』における「第1 目標」の記述である。

文中の ～ に該当する語句を、それぞれ下の a ～ e から一つ選びなさい。

数学的な見方・考え方を ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を 事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度， の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

- a 活かし b 活用し c 活用させ
d 働かせ e 役立たせ

- a 考察 b 解釈 c 解説 d 説明 e 適用

- a 活用して b 利用して c 活かして
d 役立てて e 駆使して

- a 問題確認 b 課題確認 c 問題解法
d 課題解決 e 問題解決

(2) 『中学校学習指導要領』における「第2 各学年の目標及び内容」の〔第1学年〕の「2 内容」において、取り組むものとして示されている数学的活動が三つある。

その数学的活動三つを含む組み合わせとなっているものを、下の○0～○9の中から一つ選ぶと

 である。

- a 日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動
- b 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動
- c 数学の事象から問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動
- d 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動
- e 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動

- 0 aとbとc
- 1 aとbとd
- 2 aとbとe
- 3 aとcとd
- 4 aとcとe
- 5 aとdとe
- 6 bとcとd
- 7 bとcとe
- 8 bとdとe
- 9 cとdとe

【選択問題 高等学校】

第5問

以下の問いでは、『高等学校学習指導要領』とは「『高等学校学習指導要領』（平成30年3月文部科学省告示）第2章 第4節 数学」を指すものとする。

- (1) 次の文章は、『高等学校学習指導要領』における「第1款 目標」の記述である。

文中の ア ～ エ に該当する語句を、それぞれ下の a ～ e から一つ選
びなさい。

数学的な見方・考え方を ア，数学的活動を通して，数学的に考える資
質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象
を数学化したり，数学的に イ したり，数学的に表現・処理したりす
る技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を ウ 事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との
関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡
潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数
学的論拠に基づいて判断しようとする態度， エ の過程を振り返って
考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

ア

- a 活かし b 活用し c 活用させ
d 働かせ e 役立たせ

イ

- a 考察 b 解釈 c 解説 d 説明 e 適用

ウ

- a 活用して b 利用して c 活かして
d 役立てて e 駆使して

エ

- a 問題確認 b 課題確認 c 問題解法
d 課題解決 e 問題解決

(2) 『高等学校学習指導要領』における「第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の3において、取り組むものとして示されている数学的活動が三つある。

その数学的活動三つを含む組み合わせとなっているものを、下の○0～○9の中から一つ選ぶと

 である。

- a 日常の事象や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理して問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って考察する活動。
- b 日常の事象から問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決して、解決の過程や結果を振り返って考察する活動。
- c 数学の事象から自ら問題を見だし解決して、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動。
- d 自らの考えを数学的な表現を用いて互いに表現し伝え合ったりする活動。
- e 自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動。

- 0 a と b と c
- 1 a と b と d
- 2 a と b と e
- 3 a と c と d
- 4 a と c と e
- 5 a と d と e
- 6 b と c と d
- 7 b と c と e
- 8 b と d と e
- 9 c と d と e

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和4年12月に文部科学省より示された「生徒指導提要」の一部である。

発達障害を含む障害者への差別の解消に関して、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されました。この法律では、障害を理由とする「ア」の禁止と障害者への「合理的配慮の提供」が求められています。アとは障害者の権利利益を侵害することです。合理的配慮の提供とは、イから社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合は、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮に努めなければならないということです。

- (1) 空欄アに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。 ア

- a 不当な差別的な取扱い b 活動の制限
c 各種機会の提供の拒否 d 選挙活動の制限

- (2) 空欄イに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。 イ

- a 学級担任 b 障害者
c 医師 d 関係者

- 2 次の文は、令和3年9月に文部科学省から通知された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について（通知）」にある「留意事項」の一部である。

文中の ～ に当てはまる語句を下の1～9の中から一つずつ選びなさい。

(1) 定義（第2条関係）

- ① 「医療的ケア」の定義は、人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の であり、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（以下「学校」という。）において、 の指示の下、医療的ケア看護職員や喀痰吸引等（社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）第2条第2項に規定する喀痰吸引等をいう。以下同じ。）を行うことができる介護福祉士、認定特定行為業務従事者（社会福祉士及び介護福祉士法附則第3条第1項に規定する認定特定行為業務従事者をいう。以下同じ。）が従前から行っている医療的ケアの範囲を変更するものではないこと。（第2条第1項関係）
- ② 「医療的ケア児」の定義は、日常生活及び社会生活を営むために に医療的ケアを受けることが不可欠である児童であり、18歳未満の者に加え、18歳以上の者であって、高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部に在籍する者も含まれること（以下「児童生徒等」という。）。（同条第2項関係）

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|
| 1 学校長 | 2 医療行為 | 3 定期的 | 4 医師 | 5 健康管理 |
| 6 恒常的 | 7 養護教諭 | 8 緊急的 | 9 看護行為 | |

ウ
エ
オ

- 3 次の文は、「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

児童生徒一人一人の学習状況を に評価するため、 の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが重要である。一つの授業や単元，年間を通して，児童生徒がどのように学ぶことができたのかや，成長したのかを見定めるものが学習評価である。

（中略）

なお，教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても， の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である。

- (1) 空欄力に入る語句を，次の a～dの中から一つ選びなさい。

a 長期的 b 短期的 c 効率的 d 多角的

- (2) 空欄キに入る語句を，次の a～dの中から一つ選びなさい。

a 自立活動 b 6区分27項目 c 各教科 d 各段階

- 4 次の文は、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

自立活動は，特別支援学校の教育課程において特別に設けられた である。この自立活動は，①授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし，各教科等の指導においても，自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。このように，自立活動は，障害のある幼児児童生徒の教育において，教育課程上重要な位置を占めていると言える。

- (1) 空欄クに入る語句を，次の a～dの中から一つ選びなさい。

a 指導形態 b 指導領域 c 教科 d 専門教科

- (2) 下線部①「授業時間」について，「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）」では，児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じてどのように定めるとされているか，次の a～dの中から選びなさい。

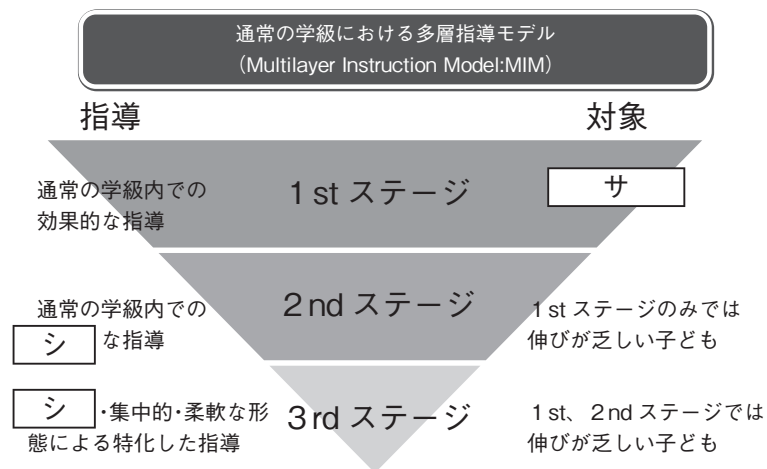
a 年間10単位時間から280単位時間までを標準とする。
 b 年間35単位時間から280単位時間までを標準とする。
 c 年間7単位を超えない範囲で定めるものとする。
 d 適切に定めるものとする。

5 次の文は、高知県教育委員会で作成した『すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック〔改訂版〕』（令和3年3月）の一部を示したものである。

文中の ～ に当てはまる語句を、下の a ～ dの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(2) 通常の学級における学習につまずきのある子どもへの支援の在り方

通常の学級において、学習につまずきのある子どもへの対応を考える上で、多層指導モデル（MIM）が参考になります。これは、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していこうとするモデルであり、特に子どもが学習に に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことを目指すものです。MIMでは、まず1stステージでは、通常の授業の中で質の高い指導を に実施します。2ndステージでは、1stステージのみでは伸びが十分でない子どもに対して、通常の授業に加え、その他の時間帯等も使いながら、 な指導を行っていきます。その子ども向けの教材、その子どもに向けての指示等、通常の学級内での な指導ととらえます。3rdステージでは、1stステージ、2ndステージの指導を行ってもなお、伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施します。 , 集中的に柔軟な形態での特化した指導を目指します。指導の場としては、通常の学級内にとどまらず、 等での指導も考えられます。



引用文献

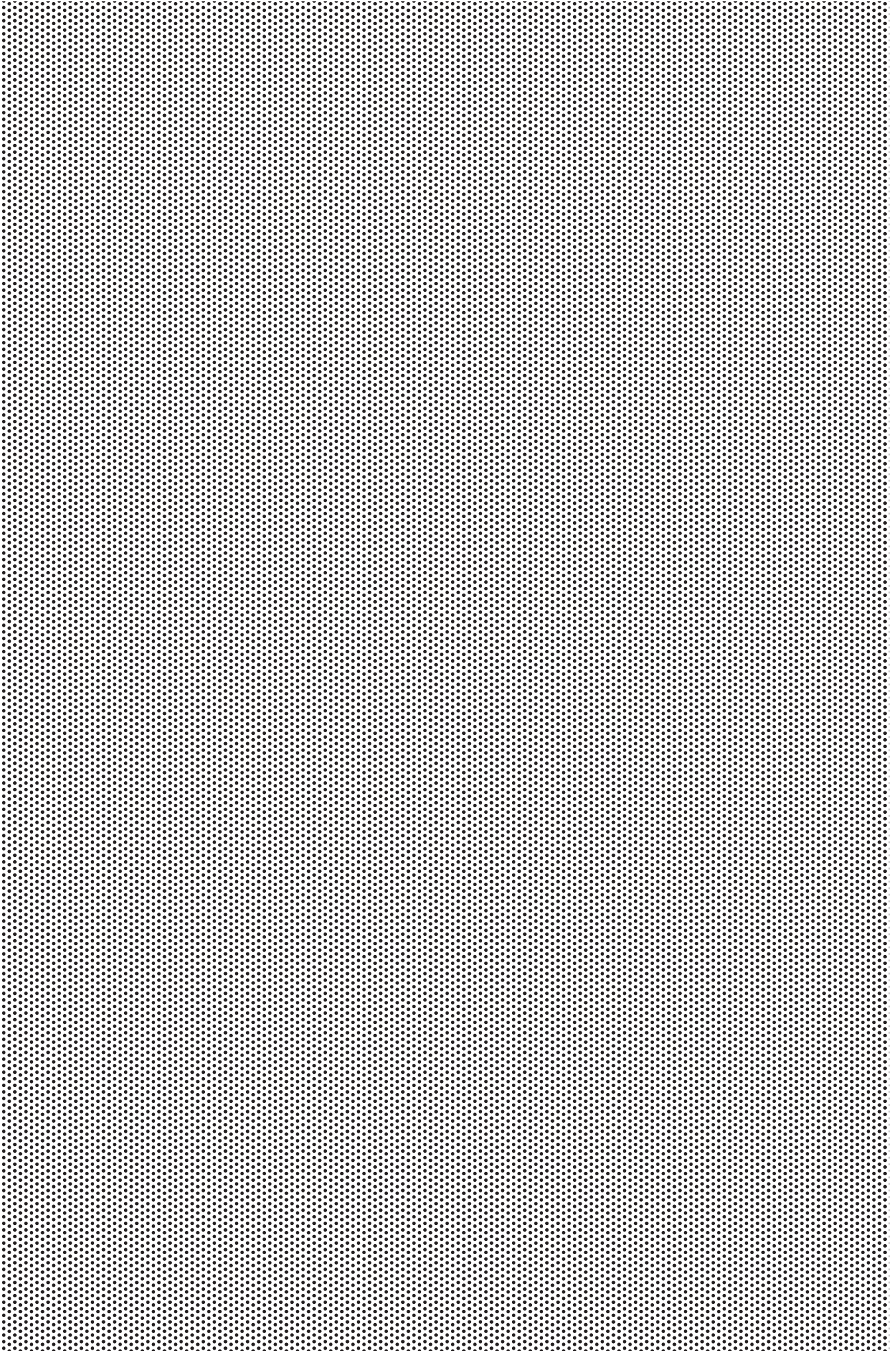
「通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM）開発に関する研究」海津他【2008】

- | | |
|------------|-----------|
| a つまずいた時 | b つまずく前 |
| c 興味がもてない時 | d 集中できない時 |

- | | |
|--------------|------------------|
| a 全ての子ども | b 特異な才能のある子ども |
| c つまずきのある子ども | d 特別な配慮を必要とする子ども |

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| a 発展的 | b 総合的 | c 横断的 | d 補足的 |
|-------|-------|-------|-------|

- | | |
|----------|-------------|
| a 居住地校交流 | b 通級指導教室 |
| c 適応指導教室 | d 交流および共同学習 |



<解答上の注意>

- (1) 問題の文中の解答記号 ア , イウ などには, 特に指示がない限り, 数字 (0~9), 小数点 (.), 符号 (−, ±), 又は文字 (a, b, c, d, e) が入ります。解答欄の ア, イ, ウ, … の一つ一つは, これらのいずれか一つに対応します。下の (例1) ~ (例3) に従って解答欄にマークして答えてください。

(例1) アイウエオ に 12.34 と答えたい場合

ア	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
イ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
ウ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
エ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
オ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±

(例2) カキク に $-5b$ と答えたい場合

カ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
キ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
ク	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±

- (例3) 分数の解答の場合, 既約分数で答えてください。また符号は分子につけ, 分母にはつけないでください。

ケコ
サ に $-\frac{7}{8}$ と答えたいときは, $\frac{-7}{8}$ として解答してください。

ケ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
コ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±
サ	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	−	±

なお, 同一の問題文中に, ア, イウ などが2度以上現れる場合, 2度目以降は, ア, イウ のように細字で表記します。

- (2) 次の (例) のように根号を含む解答の場合, 根号の中の自然数は最小となる形で解答してください。

(例) $3\sqrt{8}$, $\frac{\sqrt{52}}{8}$ と解答する場合は, $6\sqrt{2}$, $\frac{\sqrt{13}}{4}$ と解答してください。

- 6 筆記審査 (専門教養) が終了した後, 解答用紙 (マークシート) のみ回収します。受審者は, 審査室内のすべての解答用紙 (マークシート) が回収された後, 監督者から指示があれば, この問題冊子を, 各自, 持ち帰ってください。